

「研修会等名称」

平成 17 年度 全国大学 IT 活用教育方法研究発表会

場所：アルカディア市ヶ谷(東京、私学会館)

期間：平成 17 年 7 月 2 日(土)

1. 研修の内容

主催者である私立大学情報教育協会は、本発表会を「全国の国公私立大学・短期大学教職員を対象に、教育改善のための IT 活用の振興普及を促進・奨励し、その成果の公表を通じて大学教育の質的向上をはかることを目的とする」と位置づけている。

今年度の発表会では、五分野計百件の発表が行われ、報告者は以下の五発表を傍聴した。

文学概論・文学講読における IT 技術の活用 「画像と文学」

伊藤幸次氏 獨協大学

時事英語チャット：授業内のオンラインディスカッション

米岡ジュリ氏 熊本学園大学

Web ベースによる学生相互評価システム 辻岡 卓氏 四国大学

学生も手軽に参加できるテキスト制作 - wiki を用いた知識共有の形

佐野 彰氏 九州産業大学

大教室での授業を少人数教育に - Web 上での授業情報公開システム

雑古哲夫氏 関西大学

次項以下で述べるが、特に九州産業大学 佐野氏の取り組みには深い示唆を受けた。

2. 研修の成果

前項で触れた九州産業大学 佐野氏の「学生も手軽に参加できるテキスト制作 - wiki を用いた知識共有の形 - 」で紹介された取り組みは、芸術系大学において必要とされる暗黙知をゼミで共有するにはいかなる手段があるか、という問題から出発している。氏は Web、メーリングリストなど、これまでも既に多様な試みを行ってきたのだが、どれも期待したほどの効果をもたらすものではなかった、と言う。曲折の末、2005年4月より、氏は個人サーバーに wiki を導入し、自由なテキスト作成の場を学生に開放したが、これは所期以上の教育効果を持つものであった。実際、報告者もこの wiki を確認したが、ゼミ生間のやりとりは非常に活発であった。

文学部教育では、一般に、単純な知識の伝達だけではなく、テキスト読解のノウハウなど、芸術系学部に劣らぬほどの暗黙知の教育が求められる。こうした共通点を踏まえた上で、更に、比較的に消極的な本学学生の資質を考えた場合、wiki は有効な方法論であると思われた。

3. 授業への研修成果の反映状況

報告者は、担当する演習では既に BBS を設置し、議論の続き、諸連絡などを中心にコミュニケーションの場を確保するようにしている。しかしながら、現在のところ、BBS が活用されているとは残念ながら言い難い状況であり、打開策を模索していたところであった。その意味で、佐野氏の実践例からは学ぶところが多く、2005年度後期を準備期間として、可能ならば2006年度から wiki を用いてみたい。

また、これ以外にも、報告者は、本年度から担当している基本科目「哲学」を遺漏なく講義するために、Web の活用は不可欠であると考えていたが、関西大学 雑古氏の「大教室での授業を少人数教育に - Web 上での授業情報公開システム」で紹介されたシステムにも大いに裨益された。今後、同様のシステムの導入を検討したい。

学部長	FD委員長	FD委員会	総合企画課長	係